

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第1回業務推進全体会合
議事録

日時：平成25年5月31日（金）10：00～11：30

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：18名（順不同・敬称略）

木村 浩（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、木村 謙（東大）、久保（PONPO）、
篠田（若狭湾エネ研）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、土田（関西大）、
中岡（元気ネット）、別府（兵庫県立大）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、
渡辺（新日本PA）

配布資料

- 1-0. 議事次第
- 1-1. 平成25年度メンバー一覧
- 1-2. 平成24年度成果報告書（要約版）
- 1-3. 業務計画書（平成25年度）
- 1-4. フォーラムの進捗
- 1-5. 平成25年度フォーラム参加者一覧

議題

0. 自己紹介
1. 平成24年度業務報告
2. 平成25年度の計画、進捗など
3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 自己紹介（配布資料 1-1）

簡単な自己紹介が行われた。

木村_浩氏より、旅費等の事務手続き上の注意点が説明された。

1. 平成 24 年度業務報告（配布資料 1-2）

木村_浩氏および土田氏より、資料 1-2 に基づき、前年度の業務内容が報告された。

2. 平成 25 年度の計画、進捗等（配布資料 1-3、1-4、1-5）

木村_浩氏より、資料 1-3 に基づき、今年度の業務計画の説明がなされた。

続いて、木村_浩氏より、資料 1-4 に基づき、フォーラムの進捗状況が報告された。

- ・ 首都圏参加者を 4 名追加で募集した点について詳しくお聞きしたい。
 - 参加者選定において重視された項目は性別・年齢・原子力の利用に対する意見。このうち、申込があった 8 名は、原子力の利用に対する意見に偏りがあった（廃止すべき、どちらかといえば廃止すべきが大勢：社会調査から分かった分布と異なる）。加えて、年齢の若い方の応募が少なかった。そこで、比較的年齢の若い、知り合いの知り合いに打診し、フォーラム参加申込書に記入していただき、原子力の利用に対する意見の分布が適切になるように追加で参加者 4 名を決定した。
 - 今年度の参加者選定については、異論も出るかもしれないが、「参加者の分布」を重視した。
- ・ （この取り組みに限った話ではないが）そもそも、話し合いの場へ参加する方の層は、社会全体の層から偏っている（強い意見を持った方が参加しやすい）、という根本的な問題がある。
 - 公権力を行使（例：裁判員制度）しない限り、偏りをなくすことは不可能だろう。
- ・ フォーラム以外で、自分の意見を表明する場を持っているかどうかを聞いてみてはどうか。自分の意見を世の中に表明している場合、それをなかなか変えられない、という人間の性質があるため。（フォーラム期間中に積極的に話題を設定してもいいし、フォーラム終了後にインタビューで聞いてもいい）
- ・ フォーラムへの応募を増やす方策として、首都圏住民の母集団を増やす（社会調査に応じない方にもフォーラム参加申込書だけは渡す）案があったが、社会調査の分布と、参

加申込者の分布が対応しなくなる（今年度はそうなってしまった）ので、可能ならば避けたい。

- ・ 第1回フォーラムを終えて、首都圏参加者からも原子力学会参加者からも、参加前は緊張、危惧していたが、それは杞憂に終わった、良かった、というご意見があった。次年度の応募を増やす方策として、そういった生の声を匿名でホームページに掲載してはどうか。
→公開シンポジウムの役割は重要。

フォーラムの詳細設計に関しては、以上の議論も参照しつつ、フォーラム研究会でまとめていく。

3. その他

木村^浩氏より、以下の情報が伝えられた。

- ・ ホームページが整備されたこと。
- ・ 今後のスケジュール（第2回は8月、第3回は10月、第4回は12月、第5回は3月の予定）
- ・ シンポジウムは9月14日（土）または9月16日（月・祝）の予定であること。
→9月21日（土）も追加で候補となった。
- ・ 日本原子力学会 2013年秋の大会において、発表が行われること。

以上